

岐阜県嚥下障害研究会
モグモグ通信
 No. 5 (2006. 1 発行)

明けておめでとう
 ございます。
 本年もよろしく
 お願い致します。



発行所: 岐阜県嚥下障害研究会
 事務局: 木沢記念病院 ST室

嚥下障害と低栄養の関係



県立広島大学 人間文化学部
 健康科学科 助教授 栢下 淳

1970年代では、米国において protein energy malnutrition (PEM: たん白エネルギー低栄養状態) 患者の増大が医療費の増加につながる社会問題となりました。米国においては、PEMの患者は回復が遅く、合併症を併発しやすく、死亡率が高くなることが報告されています。その結果、在院日数が伸び、医療費の増加につながります。近年、日本においても PEM問題は大きな社会問題となってきています。

日本における PEMの研究としては、入院患者 2487 人を対象に血清アルブミンを測定し、3.5g/dl 以下の PEM患者が 23.7%存在していたとする報告があります。介護力強化病院に入院している 1048 名を対象とした研究では、PEM患者は女性 39.4%、男性 42.8%であったと報告されています。また、65 歳以上の高齢者 410 名を対象とした研究では、PEM患者は老健 20.6%、精神病床 34.8%、療養病床 50.5%、要介護 1—29.3%、

要介護 2—34.5%、要介護 3—32.3%、要介護 4—58.9%、要介護 5—58.5% と要介護度が上がるに従い、PEM患者は増加することが報告されています。このように、病院や施設において多くの PEM患者が存在することが明らかになってきていますが、嚥下障害と低栄養に関する研究報告は少ないのが現状です。

現在、我々の研究室では、いくつかの研究を行っておりますが、その1つに嚥下障害があると、どの程度 血清アルブミン値が低下するかという研究を行っています。現在の中間報告では、嚥下障害の有無により 血清アルブミン値に平均で 0.8g/dl の差異があるという結果が得られています。今後は、リハビリにより 嚥下障害の回復で、アルブミン値がどの程度回復するかということについても、みなさんと一緒に研究をし、栄養的な観点からリハビリテーションの意義を深めていき、患者さんの QOL を向上させながら、増加する医療費の抑制に寄与していきたいと考えています。

(注) アルブミン: 血清総たん白の一つ。低栄養や肝機能障害の場合には、数値が減少する。正常値は、3.8~5.2g/dl。

成人勉強会レポート

まだまだ未熟だった口腔ケア!

岐阜社会保険病院 看護師 勝村 香織

第3回勉強会「口腔ケアの実際」に参加しました。実際に口腔内の細菌を画面で見せていただき、ああよくTVでは“こんなにいるよ”と言っているけれど、今回目の前で実際に採取した歯垢を画像で見ると、普通にあることなんだと再確認しました。



また、染め出し液を使っただけの汚れのチェックでは、8月の初級過程講習会にて口腔ケアについて学ばせていただいた時に、汚れがついていてびっくり!。今回は奥のほうも念入りに・・・と歯磨きしていったのに、思いがけず赤い液が残っていて再度びっく



「自分の歯が上手に磨けない人は他人の歯も上手に磨けない！」と当たり前ながらも重いお言葉をいただき、今は身にしみて習ったケア方法を実践する毎日です。

我が病棟の中にも口腔ケアの研究班がいて、口腔ケアの大切さを日々一緒に勉強し、また ケアする中

りさせられました。「自分の歯が上手に磨けない人は他人の歯も

で分かっていたつもりでしたが、方法はというと、十分ではなかったのだと痛感しました。今回参加して、口の広げ方やブラシの扱いなど、ああ こうすればよかったのか・・・などと、目からうろこの出るようなケア方法を教えていただき、とても楽しく学ぶことができました。

“快適でなければ続かない”を念頭に、これからは「嫌がらせず」、「気持ちよく」、「安く、やりやすく、効率よく」ケアができるよう、頑張っって取り組んでいきたいと思ひます。

(10月1日 参加者25名、少人数形式でびっちり研修、講師：栗木みゆき先生・他 歯科衛生士3名)



講師 山川ご夫妻

暑い熱い2日間でした！！

岐阜県立大垣養護学校 小学部 教諭 宮崎麻紀

「まず、(課題を) やってみて子どもがどう反応するかを見てください。やってみて駄目なら、方法を変えればいいんです。大切なのは、何をやるかではなく、やったことで子どもが今置かれている環境に『気づき』、どう変わっていくかです。」

先日、日本ボバース研究会の山川友康先生・山川眞千子先生に、「呼吸・食事・コミュニケーション障害への援助」というテーマで2日間ご講演いただきました。冒頭の文章は、その症例検討会でのお言葉です。子どもが今置かれている環境に『気づくこと』、そのための環境を整えていくこと、子どもからのサインに指導者が『気づき』、その反応を丁寧に受け止めていくこと・・・、私の心にどかんと響いたこの言葉は、ノートの中に赤線を引いて書き込んであります。



汗を掻きながらも、必死にメモを取る参加者たち 研修会は、1日目の学童期の生活支援や摂食・嚥下障害についての講演と2日目の症例検討会に分けて進められました。症例検討では具体的な問題解決だけでなく、嚥下機能低下が疑われる具体的な症状など、講演も実践的な内容が簡潔にまとめられ、後で振り返りがしやすいものとなっていました。

「きっといいお話がきけるよ」という噂の通り、両先生の語りは静かながらも熱く、症例を提供して下さった先生方や参加者の方々の質問も熱く、「私ももっともっと頑張ろう！」と力強い気持ちになった2日間でした。どうもありがとうございました。

(9月23日～24日、参加者47名、室温29度、暑さと熱気に包まれつつ、ライフサイクルを見据えた脳性麻痺児への関わりの重要性について学ぶ)



事務局イチオシ！ 成人部門 摂食・嚥下障害関係 推薦図書 (価格：税込表示)

- 初級 ① よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 山田好秋 医歯薬出版 2004 ¥3,990
- ② 嚥下障害ポケットマニュアル 2版 聖隷三方原病院 医歯薬出版 2001 ¥2,100
- 編 ③ 《ビデオ》 こうすれば食べられる 藤島一郎 中央法規出版 1994 ¥69,319
- 中級 ④ 脳卒中の摂食・嚥下障害 第2版 藤島一郎 医歯薬出版 2005 ¥4,830
- 編 ⑤ 嚥下障害の臨床-リハビリテーションの考え方と実際 日本嚥下研 医歯薬出版 ¥5,775

平成17年度 学術講演会レポート

第8回学術講演会を振り返り

山ゆり学園 ゆりのこ 指導員 吉田朋生

日に日に寒さも厳しくなり、大会前日には高山でも少し雪が舞い 冬の訪れを感じる中、11月20日 日曜日に 第8回学術講演会（高山大会）が開催されました。

今回、私は高山大会事務局のスタッフの一員として、準備の段階から参加させていただきました。その中で最後まで心配だったのは、参加される方の人数です。高山市内とは言っても、会場の一之宮公民館は市中心部から7kmほど離れた場所で、交通の便も正直いいとは言えず、「100人として集まらなかったらどうしよう」などと思っていましたが、参加申し込みは会の前日まであり、当日は県内外から会員・非会員・学生・スタッフを合わせ150名ほどの方が参加して下さいました。本当に「皆さんよくお出で下さいました。」

午前中は、日本大学歯学部教授 植田耕一郎先生の特別講演『口腔管理と摂食・嚥下機能～介護予防新時代における“口腔機能の向上支援”とは～』で、介護保険の新予防給付制度の紹介を軸に 実に内容の濃いお話しが伺えたのではないのでしょうか。

午後からは一般演題発表が7題あり、各方面で活躍中の現場の方々の最新の取り組みに関する報告や、また 今回初の趣向として、私の所属する重症心身障害児（者）通園事業所“ゆりのこ”より 保護者の方の発表などがありました。その中で私の目に留まったのは、保護者の方が発表を終え会場を退室された後に 一人の参加者がその後を追われ、直接保護者の方と本人さんに対し、口腔マッサージの仕方や食事の際の取り組みなどを幾つかアドバイスして下さる光景でした。そこには、温かさは勿論のこと、この会に参加され摂食・嚥下に取り組むことへの熱意を改めて痛感しました。

最後に、私自身この岐阜県嚥下障害研究会に属し4年目ですが、まだまだ日々学ぶ事は多々あります。取り組みや接し方など日々変化しており、果たして



開会式 会場風景



会場 客席風景



特別講演
講師
植田耕一郎先生



質疑場面



試食品コーナー



ランチタイム



嚥下食 試食コーナー



書籍
コーナー



演者 野林氏



演者 加藤氏



座長 土田・安田 両氏



演者 牛丸さん親子

この状態でいいのだろうかと思い悩む時もあります。もっと多くの方にこの研究会の存在を知って頂き、一緒に学んで行けたらと思います。

それでは皆さん、次回の学術講演会開催地、岐阜地区でお会いしましょう。



編集後記

明けまして おめでとうございます。

「モグモグ通信」も 誕生して2年目を迎えることができました。本研究会の活動内容や予定を会員の皆様に 迅速・的確にお伝えできるよう、今年も精一杯 企画・編集に取り組みたいと思います。

なお、ご意見やご感想、おすすめの図書/ビデオ、耳寄りな研修会情報などがございましたら、t.tamo-chan@animonet.org までお寄せ下さい。掲載させていただきます。(県立多治見病院 田本)



勉強会のお知らせ

成人部門

■第4回勉強会

日時：平成18年1月21日(土) 午後2時～4時
場所：木沢記念病院 中部療護センター3F 討議室

内容：「口腔ケアの実際」

講師：栗木みゆき先生(訪問歯科衛生士)
多治見市歯科衛生士メンバー 2名

参加費：会員 1,000円 非会員 1,500円

お願い：キャンセルの場合は 必ずご連絡下さい。

■第5回勉強会

日時：平成18年3月25日(土) 午後2時～4時
場所：木沢記念病院 中部療護センター3F 討議室

内容：「症例検討会」

参加費：会員 500円 非会員 1,000円

*第5回勉強会への参加希望者は、下記の事項を記入の上、FAX または 郵便 でお申込み下さい。

記入事項：氏名、職種、勤務先・所属、連絡先(自宅 or 勤務先)、会員か非会員か

*会員の場合は、個人宛の案内封筒のラベルに会員番号が印刷されています。

申込先：〒509-5211

土岐市土岐津町土岐口703-24

土岐市立総合病院 リハ部 加藤孝憲 宛

FAX (0572) 54-8488

受付
終了

小児部門



■第16回勉強会《講義&製作実習》

日時：平成18年3月11日(土)

午前10時～午後4時半

場所：平成医療専門学校(岐阜市黒野)

内容：「ポジショニング&シーティング

—子どもたちのQOLを高める姿勢づくり—

講師：近畿福祉大学 福祉産業学科 教授

繁成 剛 先生(テクノエイドデザイナー)

参加費：会員 2,500円 非会員 3,500円

定員：60名(先着順)

材料費・弁当代を含む

締切日：2月17日(金)

*参加希望者は、官製往復はがきに下記の事項を記入の上、お申込み下さい。

記入事項：氏名、職種、会員か非会員か、所属施設の名称・住所・電話番号・FAX番号、できれば…緊急連絡先(自宅 or 携帯)

申込先：〒507-8522

多治見市前畑町5-161

県立多治見病院 リハビリ科 田本朋巳 宛

■第17回勉強会(日時・場所については予定です)

日時：平成18年5月27日(土) 午後1時～5時

場所：豊田学園医療福祉専門学校(岐阜市東鶯)

内容：「おいしく楽しく食べるために」

～口腔機能と栄養・調理法・食形態～

講師：豊田市こども発達センター

海老子 里美 先生(栄養士)

斎藤 啓子 先生(作業療法士)

問合せ：各務原市福祉の里 たんぽぽ 安田香実 宛

FAX 0572-25-1246

Eメール kagusan@ccn.aitai.ne.jp

*お問合せの際は、氏名・連絡先住所などを明記願います。後日、研修会案内作成後に案内文書を直接郵送させていただきます。